「相手の幸せをいのる~お互い様を考える」

●「自分が変わる、相手が変わる」

オノ·ヨーコさんの近著『今あなたに知ってもらいたいこと』(幻冬舎)に興味深い言葉がありました。

夫のジョン・レノンさんが凶弾に斃れた後、彼女への誹謗が続きました。

「このままでは自分がだめになってしまう」

と思って始めたのが、「人を『bless(祝福)』すること」だというのです。 夜、ベッドの中で、自然に浮かんだ名前を祝福するのです。口をついて出て くるのは、自分に嫌がらせをした人たちの名前だったそうです。

一週間ほどして自分の気持ちに変化が表れ、恨みが薄れてきたと同時に、 不思議なことに、自分を中傷していた人たちの鉾先が変わっていったというの です。

彼女は、自分の身体をさいなんでいたのは、「自分の中にある恐怖や怒りなのだ」ということに気づいたといいます。

そして、「人のために祈っているつもりでいたのだけれど、それは自分の中にある恐怖や怒りを追い払うことだったのです。」とまとめていました。

三十年近く前に聞いた時、とても印象深く思った法話を、最近改めて聞きま

要はないし

そうになっています。

お金を払うと、

●信心を生きる人の言葉

した。 金沢のお寺に高光かちよさんという坊守さんがいました。

ある時、七十過ぎの身で、ひとり東京へ出かけました。

と運転手に言われ、寂しく辛い思いをされたそうです。

東京駅からタクシーに乗り、行き先を言うと返事がないのでもう一度言うと、

と、 「わしらは、あんたらを荷物と思ってる。荷物に口をきいたり返事をする必

しかし、その時、信心の智慧の「いのち」がはたらき、 「運転手さん、この荷物は、遠い金沢から電車にゆられ、古びて、もう壊れ

だから、どうか壊れないように、目的地まで届けてくださいよ」

と、自分が荷物になったというのです。 目的地に着くと

「おばあちゃん、着きましたよ」 と今までと違った声で運転手から言葉が返ってきました。

と優しさあふれる言葉がかけられたといいます。

「おばあちゃん、気をつけてね」

信心が智慧となって、高光さんは荷物になりました。そうしたら、それによっ

これは、お互いが共に人間に「成る」というお話しだと思います。 ●敵対を超える「お互い様」

ところで、今から八百年前の親鸞聖人のお手紙には、時代を超えて私たち

て、今度は運転手さんが人間にもどった、人間らしさを回復したのです。

に大切なことを教えてくださっています。

う。

「念仏を御こころにいれてつねに申して、念仏そしらんひとびと、この世·の ちの世までのことを、いのりあはせたまふべく候ふ。(中略)ただひがうた

る世のひとびとをいのり、弥陀の御ちかひにいれとおぼしめしあはば、仏

の御恩を報じまゐらせたまふになり候ふべし。よくよく御こころにいれて

申しあはせたまふべく候ふ。」〈『浄土真宗聖典(註釈版)』本願寺出版、 808頁〉 当時、念仏の教えは権力から弾圧されていました。 しかし、親鸞さまは、阿弥陀如来のみ教えに出遇えた皆さんは、その教えを 深く心に受けとめて、寝ても覚めてもつねにお念仏を生活習慣として称えて、

念仏の悪口をいう人びとの、この世と後の世の幸せを、お互いに祈り合ってく

ださい、そして、非業といい、間違った考え方にとらわれた世の人びと、つまり、

念仏を謗る人びとが阿弥陀仏の御誓いを仰ぐ身になるように、とお互いに考

え合わせてくださるなら、それは阿弥陀仏のご恩に報いることになるでしょ

どうか、よくよく心を込めて互いに念仏するのがよいでしょうと仰っていま

す。 私には、自分に敵対する人、自分を悪く言う人の幸せを祈ることなど、とて もできませんし、想像もできませんでした。

しかし、現実にそのように生きた親鸞さまが、そして、その生き方を勧めてく

改めて、ご縁次第でどのような振る舞いもしかねない、お互い様だというこ

とを見つめたいと思いました。 山崎龍明先生(浄土真宗本願寺派法善寺前住職、武蔵野大学名誉教授)の

ださる方がたがいることに出遇えました。

言葉をご紹介します。

す。

ています。

恐れが生じたのである」と述べています。持てば必ず使いたくなるので す。持てば安全どころか、それが脅威になる、あるいは恐怖になるという

仏陀は、「恐れが生じたから武器を持ったのではない。武器を持ったから

言葉が、私自身が生きていく根本です。
『聖書』の「汝、殺すなかれ」「まず剣をさやにおさめよ」に対して、仏陀は「殺してはならない。殺させてはならない」と言われた。これに尽きます。
「殺してはならない。殺させてはならない」と私たち宗教者は口を開けば

言うけれども、そのことが今日の社会的なさまざまな命の問題にきちっ

とリンクしていかなければならない。むしろ机上の空論になっているということを、自分の中に問うてみたい。 経典(『無量寿経』)に、仏の真実が人々に行きわたる世界は、「国豊かにして、民安らけく」、その次に「兵戈無用」というのがあります。つまり兵隊も武器も無用である、武器を全く必要としない国ということです。

こんなことを言うと、憲法を含めて理想論だとしばしば批判されますが、 私は理想を持たない人間は必ず堕落すると思っています。理想は理想で あるが故に尊い。そしてその理想によって現実の誤りをきちっと洞察して

いく。それを担って生きていくのが宗教者の歩みではないかと思うので

今、国防のために沢山の予算をかけて軍備を増やすことを目の当たりにし

連載「いま語る 166 「理想により現実の誤りを洞察するのが宗教者 1

お釈迦様の教え、そして、親鸞さまのお心を受け止めて、私たちは、敵対する関係を目指すのではなく、哀れみ、いとおしむ生き方を大切にしたいことで

す。 合掌 万行寺第十八世住職 釋靜芳(本多 靜芳)

※ご縁のあったあなた! 第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で『親鸞様・御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」で『親鸞様・御手紙』を学びにいらっしゃいませんか? お待ちしてます(会費はいずれも資料・茶菓代として千円です)。 「ナムの会」は一月と十二月は休会します。